

# 開発進む間伐材製品

(5) ☆☆

2004年(平成16年)2月23日(月曜日)

フアインダー

2004 1 Just

## 職人技の精密積み木

本県は、森林面積が県土の84%を占める山林県。山を守るため間伐の重要性が叫ばれているが、一方で、切り出した間伐材を何とか有効活用する取り組みも、目立たないながら着実に進んでいる。今週はユニークな発想で間伐材の製品開発に取り組む高知市内の会社を紹介する。

(経済部・掛水雅彦)

うたい文句は「大人のめめるのか。うちの本業背の高さまで積み上げるが別注家具屋だからでことがでる」。県産ヒノキの積み木によって間伐材の利用促進に一役買っているのは高知市朝倉丙の井筒屋(筒井政彦社長)。製品名は「ウッドキュウブ」。発売されてまだ一年もたないが、生活協同組合「高知こだわりコープ」のカタログ販売にも仲間入りした。なぜ、そんなに高く積

### 「高く積める」自慢

#### 家具製作の井筒屋

(高知市朝倉丙)

迎え、「子供のための記念事業を何か」となり、筒井さんに任された。

仕事柄、木製品を作った県内の保育園や幼稚園へ寄贈することにしたが、アイデアが浮かばない。ドイツのおもちゃ博物館まで出掛けて考えた末、「自分でできるのは積み木しかない」。

ドイツ産材による積み木を子供たちにプレゼントして「仕事」は終了、のはずだったが、贈呈式の席上、来賓の橋本大二郎知事から「県産間伐材で作ってもらえないものか」と言われて、商品化に踏み切った。

高く積み上げられる積み木「ウッドキュウブ」で県産ヒノキの間伐材を売る筒井さん(高知市朝倉丙の井筒屋)

商品として何とかめどがついたのは、昨年十一月。大阪の「まいどおおきに博」の本県ブースに参加したところ、大阪の生活情報紙で紹介され注文が舞い込み始めた。無塗装で幼児が口に入れても大丈夫という安心感や、丁寧な仕上げが都会の親の心をくすぐった。

同じころ、「高知こだわりコープ」の話も入り、これまでに合計約二百組が売れた。

井筒屋は昭和二十六年創業で、一年前までは家具製造のみ。それが積み木販売を契機に、県内のイベントにも顔を出すようになり、遊ぶ子供の生き生きした表情を見る楽しさも発見した。家具一筋に半世紀だった会社筋が、思わぬきっかけから新たな道に踏み出した。

